

小6のころに大好きだった呉服屋の息子になんと30年ぶりで再会しました。小学校卒業以来始めて開かれた同窓会の受付にいた彼に「ああ私あなたが大好きだったよ」と思わず告げると、彼も「おお俺もあんなのこと大好きやったわ」と。でも大好きだったという事実しか思い出せない。どこが大好きだったかは忘れちゃった。だけど、大好きだった気持ちだけは甘く切なく思い出せちゃう。チョコレートの儀式を知る少し前のほんわかです。

「いけだのまあちゃん」と彼らは私を呼びました。そう呼ばれると瞬時にその場所に帰れちゃうから不思議です。

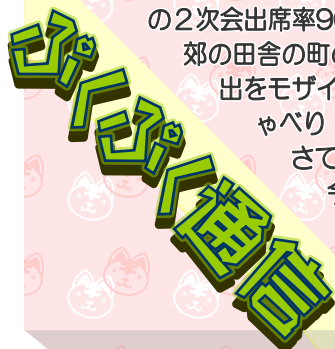
今年人生の折り返しのきっちりを迎えた、高度成長期に幼少期を過ごした私たちは、その晩の2次会出席率90%、3次会出席率80%、4次会出席率60%という大人数で、金沢近郊の田舎の町の飲み屋の収容人員を遙かに超えてしまう大人数で、それぞれの思い出をモザイクのようにつないで、大いに感傷に浸り、痛飲し、歌い、踊り、地元のアクセントでしゃべりしゃべり・・・みんなで午前様でした。そうだ、チョコを贈ってみようか。

さて、仕事です。

今年は静かな正月明けを過ごしていましたが、心の準備ができていなかった大雪を乗り越え、まさにさつき繁忙期に突入しました。

今年もがんがん頑張りますね。新しい挑戦の1年が始まっています。

代表取締役
中山雅美



☀ アドレスの「テープおこし」はいかがですか？

専門用語・周辺事情

アドレスは何を「高品質」として追い求めているのか—これが前号で紹介した社員による座談会のテーマでした。そのカンカンガクガクと交わされた議論を読み返すと、どうやら「お客様のニーズ」というキーワードにたどり着くようです。

実は単に「テープおこし」といっても、受託業者としてはいろいろなスタンスが存在します。そのなかで、アドレスがこうあり続けたいと思っているスタンスは、私たちのお客様である会議（講演会）の記録担当の方々が利用しやすいデータを作成すること、この点に尽きるようです。具体的に言うと、アドレスではあえて次のような作業付加をスタンダードの仕様としています。

1. 用語の確認=①複雑な専門内容であってもできるだけ調べ上げ、②発言について可能な範囲で裏付けを取り、間違いや記憶違いをチェックする
2. 文章の整理=①助詞（てにをは）や用字用語などを修正し、②主語と述語の掛かりを整理して読み下しやすくする

ところで、「お客様が利用しやすいデータを作成する」といっても、お客様ご

本人の方が内容について私たちよりも詳しいはず。そう考えると、私たちのスタンスは僭越で、さらには徒勞ですらあるのかもしれませんが。

にもかかわらず、私たちは「お客様が利用しやすいデータを作成する」ことにこだわっています。なぜなら、私たちのこだわる細やかな作業こそ、お客様が報告書を完成される際にきっと苦勞されていると想像するからです。そして、できるならばお客様ご自身が作成された場合と同等のものを提供したいと望んでいるのです。

ですから、お客様から「よく調べていただいてありがとう」とただ一言の謝辞をいただくとき、さらには講師の先生方から「趣旨をくんだテープおこしだった」と評価いただけるとき、それこそ私たちの意がなかったことに他なりません。その点で、手を抜かずに丁寧な仕事をすることによって、私たちは単なる原稿の下打ち業者ではなく、お客様の「パートナー」になれると信じているのです。

私たちのスタンスはお客様のニーズにマッチしていますか？

アドレスの「テープおこし」はいかがですか？

※座談会の記録は弊社WEBにてご覧いただけます。

2006.02.14

ADDRESS VOICE No.30

～お口の恋人！ボビーと私はバレンタイン号～

ADDRESS PLUS
Total Service Centre

〒921-8147 金沢市大野1-342-3
TEL.076-298-8585(代) FAX.076-298-7665
URL: <http://www.adrs.co.jp/> E-mail: office@adrs.co.jp

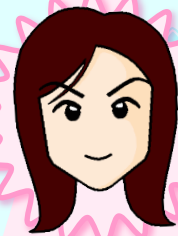


うれしはすかし第4弾

MY SWEET バレンタイン

~She is so sweet~

この頃では、特に深い意味合いを持たない日になりつつありますが、学生時代は冬の一大イベントで、本命には手作り、それ以外は市販というのがお決まりでした。チョコを渡せるか渡せないかはもちろんのこと、なかなか渡せないからといって、自分で食べてしまわないか、度胸試しを兼ねたイベントだったなあと思います。過去の成績を見てみると、逃げずに渡していたほうが多かった…です。女子の間で手作りチョコをみんなで交換し合い、お互いの腕を競い合う、コンテスト的な役割も密かにありましたね。最近は、市販のチョコをあれこれ選ぶのが楽しく、何より楽ちんで、作ることも少なくなりました。バレンタインといえば、「度胸試し」と「コンテスト」、そんな二つの思い出がよみがえります。



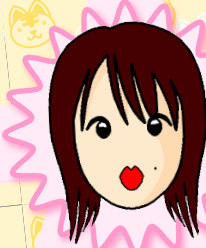
営業部
高平 佳奈

スリランカで日本語教師をしていたときのこと。バレンタインデーに教室に行くと、女子学生がみんなにチョコレートケーキを配っていました。女性がチョコを贈るのは日本独自の風習と思っていたので驚きましたが、話を聞くと、バレンタインなど関係なく、ちょうどその日が自分の誕生日だから配っているのだと彼女は言うのです。そう、彼の地では、誕生日は人に祝ってもらう日ではなく、誕生日を迎えた本人がケーキやお菓子を振る舞う日だそうなのです！実はそれまでも、お菓子をもらおうと「おめでとう」と答える学生が多くて、「何故？」と訝しく思いつつ、いちいち「ありがとう」だよと訂正していたのですが、あれは「誕生日おめでとう」という意味だったのですね。一気に謎が解け、カルチャーショックのバレンタインデーでした。



TTL事業部
北本 理恵

昨年のバレンタインデーは何をしていたかな…と思い返したところ、大学の部活動の女子全員で、同学年の男子のお宅訪問をし、突然チョコレートを渡したということを思い出しました。警戒してなかなかドアを開けてくれなかったり、すぐく部屋が散らかっていてプライベートを覗いてしまったお宅訪問もありましたが、みんな意外なほど喜んでくれて、こちらまでうれしくなりました。今年もすてきなチョコレートに出会いますように！



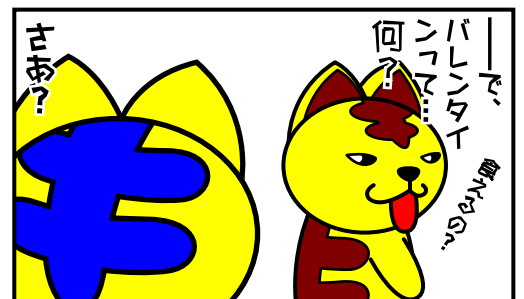
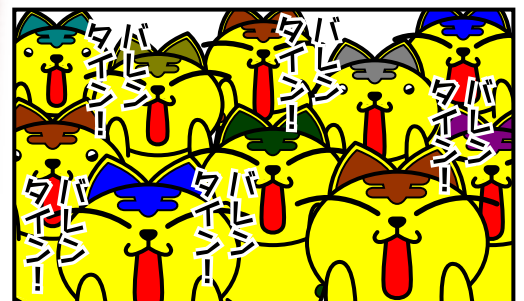
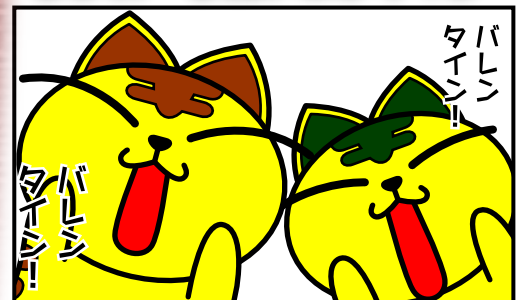
営業部
平 絵梨香

中学1年の初めての決戦の日のお話を。前日、夜中までかかって作り上げた手作りチョコ。地元のショッピングセンターで悩みに悩んで準備した包装紙とリボンで包み、手提げバックに入れて、おまけに「メッセージカード」まで準備。義理チョコなんて考えられないときで、そのチョコ一つだけ持って、出勤。その日の授業は「うわのそら」だったはず。とりあえず部活も行って、その当時片思いしていた「えっちゃん」という男の子を待ち伏せすること、2時間半。私の台本では、「これ」っただけしか言えなくて、「きゃっ」とか言って逃げ帰ってくるシナリオでした。なのに本番に弱い私は、なんと！「好きです」と口走ったのです。ま、本音ですわね。自分の口から出た言葉にワナワナしていると、「俺も」ってお返事が♪皆さんも、これまでの2月14日を思い出してみませんか？「えっちゃん」みたいな粋な返事をしたことはありませんでした？



営業部
小崎 三智子

あどれーくんとバレンタイン



続きはWEBにて！